

令和
7
年度版

作文の友 5

～書くこと 大好き～



愛知教育文化振興会
三河教育研究会

5	年		組	名前	
----------	---	--	---	----	--



原稿用紙の使い方・書き直し方

題は二、三マスあける

三行目から

書き出しは一マスあける

ただし「から書き出すときは一マスあけない

話しことば・会話は
行をかえる

話しことば・会話の
二行目は一マス下げる

会話文の次の行から新しく文が始まるときは一マス下げる

話の内容が変わるときも一マス下げる

書き直すときの記号

┐		{
行をかえる	とる	つけくわえる
	書きかえる	

一マスあける

「マ」

さいごの一マスあける

○ と
しは
同じ
マス
に
書く

いちばん下の「,」「。」はマスの中に入れる

先生と保護者の皆様へ

- ・教科書との関連を図っています。
- ・児童が自分の力で文章が書けるようになることを意図して編集しています。
- ・参考作品は「みかわの子」や地域の読書感想文集に掲載されているものを使っています。
- なお、掲載作品の学校名、地区名については執筆時の名前で表記されています。

令和7年度版 作文の友 5年

編集 「作文の友」編集委員会
三河教育研究会

刊行 公益財団法人愛知教育文化振興会
〒444-0868 岡崎市明大寺町字馬場東170番地1

電話 0564-51-4819

印刷 あいち印刷株式会社

※無断で複写・複製することを禁じます。

いき 地域のみにょくを 伝えよう

すじ
○筋道を立てて書きましょう

★言葉の力 筋道を立てて書くためには

- ・読み手に伝えたいことの中心を考え、情報を整理する。
- ・調べて分かった事実と、自分の考えを区別して書く。
- ・「始め・中・終わり」など、伝える情報に合った文章の構成を考える。
- ・主に「中」の文章のまとまりをくふうする。

■学習の流れ

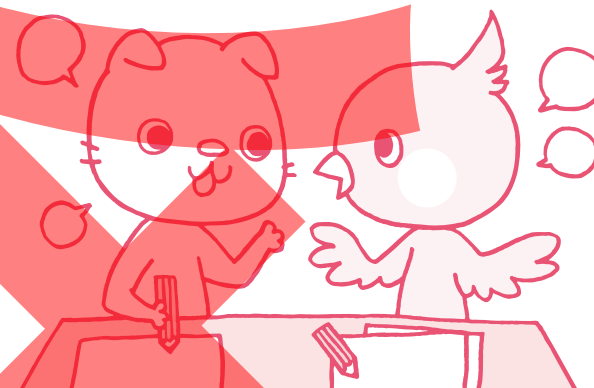
- ① 題材について調べて情報を整理しよう。
- ② 記事の構成を考えよう。
- ③ タウン誌の記事を書こう。
- ④ 感想を伝え合おう。

文章の筋道を立てながら、タウン誌の記事を書きましょう。

作文の友

～書くこと 大好き～

5



目次

1	地域のみにょくを伝えよう……………2
2	五年生の本だな……………6
3	心の動きを短歌で表そう……………12
4	和の文化を発信しよう……………16
5	どう考える？ もしもの技術……………22

一 題材について調べて情報を整理しよう。
次の例を参考に、どんなことをタウン誌の記事に書くかを考えましょう。

〈整理ノート〉

■ 題材の例
・ 古くからある名所
・ 新しい店や建物
・ みりよくのある人物
・ 地域特有のめずらしいもの

■ 調べて分かった事実や自分の考えなど、情報を整理して書きましょう。

この他にも、記事にしたい
題材を書いてみましょう。

二 記事の構成を考えよう。

整理した情報をもとに、記事の構成メモを作りましょう。書きたいことの中心を意識しながら、筋道を立てて、文章を書きましょう。分かりやすく伝えるために、資料も活用しましょう。

■ 構成メモ

ポイント
調べて分かった事実から、どのような考えを持ったのか、分かりやすく説明しよう。

始め	どう入
中	地いきのみりよく①
	(事実)
	(考え)
	地いきのみりよく②
	(事実)
	(考え)
終わり	まとめ

三 タウン誌の記事を書こう。
三は後ろの29ページ〜30ページを使いましょう。

四 感想を伝え合おう。
完成したタウン誌の記事を友達と読み合い、説明が分かりやすいと感じたところや、資料がうまく活用できていると感じたところなどを伝え合いましょう。

五 ふり返りを書こう。
筋道を立てて説明するために、どのようなふうをしましたか。

()	()	()
より	()	()
()	()	()
より	()	()
()	()	()
より	()	()

五年生の本だな

○読書感想文を書きましょう

今までに読んだ本の中から、心に残った本を選んで、もう一度読み直してみましょう。悲しくてなみだを流しながら読んだ本、おもしろくて次から次へと読み進めた本、なぜだろうと考えてしまった本もあるでしょう。

自分の心に残った本には、新しい発見や心をゆり動かすことがあります。これまでの自分のすがたや考え方と比べると、初めて気づくことや学ぶこともあ
るでしょう。それらを、読み手によく分かるように、表現をくふうしてくわしく書いてみましょう。



一 賢暉^{としま}さんの感想文を読んで、書くときのポイントを見つけよう。

次の作品は、『ちいさなちいさな めにみえない びせいぶつのせかい』を読んで書いた感想文です。び生物の世界について、賢暉さんがどのように感じとり、どのように書き表したのか、よく読んで調べてみましょう。

ありがとう、び生物

西尾・矢田小 勝野 賢暉

① ぼくはワクワクドキドキする、とてもすてきな本に出会った。ページをめくるたびに、カラフルではく力のある絵が次々と目に飛びこんできて、あっとおどろくことや考えさせられることがたくさん書いてあり、び生物の世界が楽しくて、夢中になつて何度も読んだ。

② ぼくは今まで、び生物と聞くとあまり良い感じがしなかった。なぜなら、インフルエンザなどの病気はび生物のしわざで、病気にかかるは大変だからだ。でも、病気を引き起こすび生物ばかりではなく、ぼくたちが元気でいられるように助けてくれるび生物もたくさんいることを、この本が教えてくれた。

③ スプーン一ぱいの土の中には、十億のび生物がいる。それは

インドの国中の人を全部集めたくらいの数と知ってびっくりした。それなら、ぼくの家の庭や学校のグラウンドの土の中には、いったいどれだけのび生物がいるのだろう。そう考えると、ぼくの頭の中はすごい数のび生物のことでいっぱいになった。

④ び生物が、増えるのが得意なことにおどろかされた。ぼくは、インフルエンザになったときのことを思い出した。初めは少しだるいくらいで大したことはなかった。ところが、数時間で高熱になって、起き上がることもできなくなってしまい、とても苦しかった。これは、び生物が体の中で増えて増えて数え切れないくらいになっていたからだと分かった。び生物は、とても小さいけれど、たくさんに増えたから、ぼくの体も負けてしまったのだ。

⑤ び生物のすごさはこれだけではない。とんでもなく大きなことをしているのだ。

⑥ 山をすり減らしたり、がけを作り上げたり、海を赤くそめたり、空をくもらせたり、雪をふらせたり……。信じられないけれど、全部本当だ。び生物は、ぼくよりすごく小さいけれど、仲間といっしょにとても大きな仕事をしている。それが強く心に残った。

○書き出しをくふうしてみましょう。

①② 作者は、び生物の世界にふれたときの感動から書き出しています。

ほかにも次のような書き方があります。読み手を引きつける効果的な書き出しを考えましょう。

- ・本を読むきっかけになったことから
- ・書名や心に残った登場人物のすがたから
- ・登場人物や筆者へのよびかけから
- ・自分の経験から
- ・本の内容のしょうかい（自分が気に入った文のぬき出し）から

○具体例を入れて書きましょう。

③④⑤ ⑥ 作者は、身近にある「学校のグラウンド」や「インフルエンザになったときのこと」などを挙げ、自分の考えにつながる事実を選んで書いています。具体例を書くことで、作者の感動がより読み手に伝わります。

- ・本の中に何度も登場する言葉をテーマに決めて書く。
- ・登場人物の行動や言葉を引用し、自分の考えとかかわらせて書く。
- ・事実（具体例）と自分の感想・意見を区別して書く。



⑦ もし、び生物がいなかったら、どうなるだろう。大好きなヨーグルトが食べられなくなるのは、まだがまんできる。でも、雨がふらなくなるとか、土がなくなるのは大変だ。野菜や果物ができなくなる。動物も花も木も虫たちも生きていくことはできない。あたり前のようにいるび生物がいなくなると、ぼくたちは人間は、息をすることも、食べ物を食べることもできないのだ。び生物は、ぼくたちの命を支えてくれる、かけがえのない存在だったんだと気がついた。び生物のおかげで、ぼくたちは生きていられるんだと、感しゃの気持ちでいっぱいになった。

⑧ 学校の理科の実験で、けんび鏡を使ってび生物を見ることができた。本で読んだ内容とレンズの中のび生物がつながって、おおっと思わず声が出た。そのとき思った。び生物を使って、ヨーグルト以外にもおいしい食べ物を作れないだろうか、び生物で病気を治せる薬はできないだろうか、び生物をもっと勉強して、何か開発してみたい、と。この本を読んで、ぼくの夢が広がり始めた。

（『読書感想文集 天空』二〇一五年度・第14号 愛知県学校図書館研究会）

ニコラ・デイビス『ちいさなちいさなめにみえないびせいぶつのせかい』（ゴブリン書房）

○自分のこれまでの生き方や考え方と比べて、学んだことを書きましよう。

⑦ 作者は、「もし、び生物がいなかったら、どうなる」か考えたことを具体例を挙げながら書いています。

作者は、あまり良い感じがしなかったび生物をかけがえのない存在だと気づき、感謝の気持ちをもちようになったことが伝わります。この表現は題名にもつながっています。

○しめくりをくふうして書きましよう。

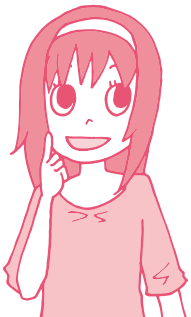
⑧ 作者は、本から学んだことを理科の授業でさらに深めています。

さらに、び生物を使って何か開発してみたいと作者の夢が広がっていきます。そんな作者の希望いっぱいの思いが読み手の心に残ります。

二 メモを取りながら読もう。

心に残った本を選び、次のことについてメモを取りながら、もう一度本を読んでみましょう。

書名	作者名
(1) この本を選んだわけ、この本を読もうと思ったきっかけ	
(2) あらすじや本のだいたいの内容	



心の動きを 短歌で表そう

○表現をくふうして短歌を作りましょう

★言葉の力 表現をくふうして短歌を作るために

- ・心の動きや出来事の様子が伝わるように言葉を選ぶ。
- ・何を伝えたいかを考え、より適切な言葉をさがす。
- ・言葉の順序を入れかえたり、言葉の組み合わせを考えたりして、表現をくふうする。

■学習の流れ

- ①材料を集めよう。
- ②三十一音で表現しよう。
- ③表現をくふうして短歌を仕上げよう。
- ④感想を伝え合おう。

生活の中で新しい発見をしたり、感動したりして、心が動いたことはありませんか。その中から、書きたいことやみんなに伝えたいことを見つけ、短歌で表しましょう。

三 感想文を書こう。

どんな順序で書き進めるか、組み立てを考えてから、感想文を書きましょう。また、書き上がった感想文を読み合い、感想を伝え合いましょう。

(3) 心に残った場面や言葉									
(5) 自分が思ったこと、考えたこと									
(6) 読む前と比べて、ものの見方や考え方が変わったところ									
(4) 自分と似ていると思ったこと、ちがうと思ったこと									

一 材料を集めよう。

生活の中で、心が動いた場面や出来事を思い出し、材料を集めましょう。したこと、見たこと、聞いたことなどをメモに書き出し、そこから連想した言葉をつないで発想を広げましょう。

連想メモを書きましょう。

二 三十一音で表現しよう。

メモしたことの中から題材を選び、発見や感動を五・七・五・七・七の三十一音のリズムで表現しましょう。

音の数え方

- ・かな一字につき一音と数えるのが基本。
- ・「ん」、「ー(のばす音)」、小さい「っ」も一音。
- ・「しゃ」「しゅ」「しょ」などのように、二字で一音となるものがある。

三十一音で表現しましょう。

※リズムがあれば、字数にこだわらなくてよい。

三 表現をくふうして短歌を仕上げよう。

作った短歌を声に出して読んだり、友達と読み合ったりして、もっとくふうできそうなどころがないかを考えましょう。

くふうするポイント

- ・心の動きや出来事の様子が伝わるように言葉を選ぶ。
- ・何を伝えたいかを考え、より適切な言葉をさがす。
- ・言葉の順序を入れかえたり、言葉の組み合わせを考えたりして、表現をくふうする。

(例) 妹と観察したよたくさんの

流星群を夜ふかしをして

夜ふかしで流星群を観察だ

あっちもきらりこっちもきらり



「似ている別の言葉の例」

四 感想を伝え合い、ふり返りをしよう。

- (1) できあがった短歌を友達と交かんして読み合い、思いうかぶ場面の様子やおもしろいと感じたところなど、感想を伝え合いましょう。

()	()	()
より	()	()
()	より	()
()	()	より

- (2) どのように表現をくふうして、短歌を作りましたか。

「和の文化を受けつぐ——和菓子^{がし}をさぐる」を読んで学んだことを生かしながら、和の文化について調べましょう。そして教科書165ページを参考にしながら、ポスターにまとめましょう。

■学習の流れ

- ① 題材を決めて情報を集めよう。
- ② わり付けを考え、ポスターを作ろう。
- ③ ポスターの解説文を書こう。

和の文化を 発信しよう

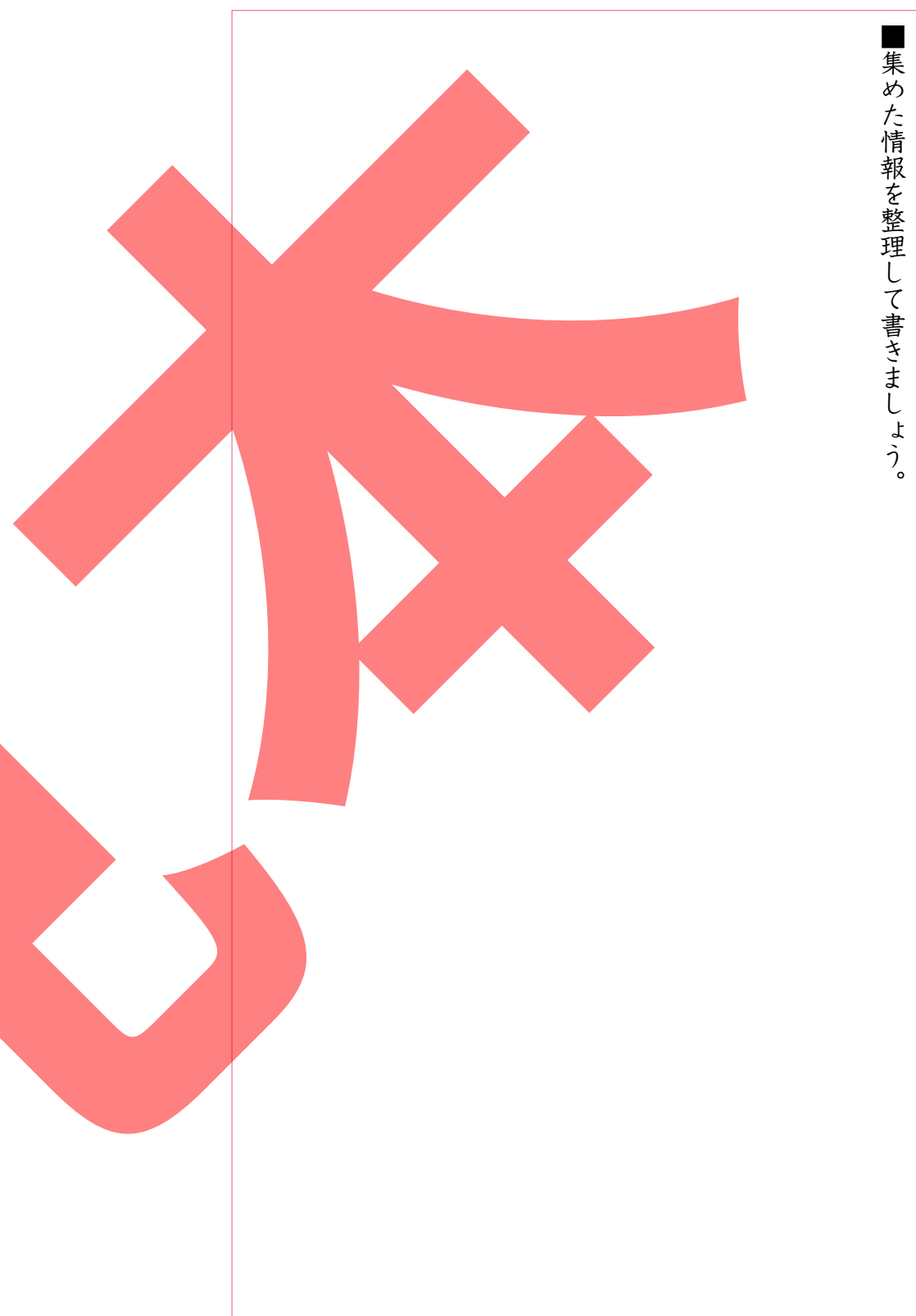
○目的に応じて情報を関係づけましょう

★言葉の力 目的に応じて情報を関係づけるためには

- ・ 何のために伝えるのか、目的を明確にする。
- ・ さまざまな方法で情報を集め、その中から目的に合ったものを選ぶ。
- ・ 文章だけでなく、表やグラフ、写真などの資料を適切に使って表す。
- ・ 文章と図表との関係を考えて、情報を効果的に示す。

一 テーマを決めて情報を集めよう。
各自でポスターのテーマを決めたら、本やインターネットで集めた情報を整理しましょう。そのうえで、ポスターで何が伝えたいのかを考えましょう。

■集めた情報を整理して書きましょう。



二 わり付けを考え、ポスターを作ろう。

ポスターのわり付けを考えると、説明やキャッチコピーなどの文章と写真などの図表を、どのように配置すると効果的かを考えましょう。

■教科書167ページを参考にして、わり付けを書いてみましょう。



ポイント
図表をどのように活用すると、ポスターの意図が読み手に伝わるか考えよう。



「キャッチコピーとは」

三 ポスターの解説文を書こう。

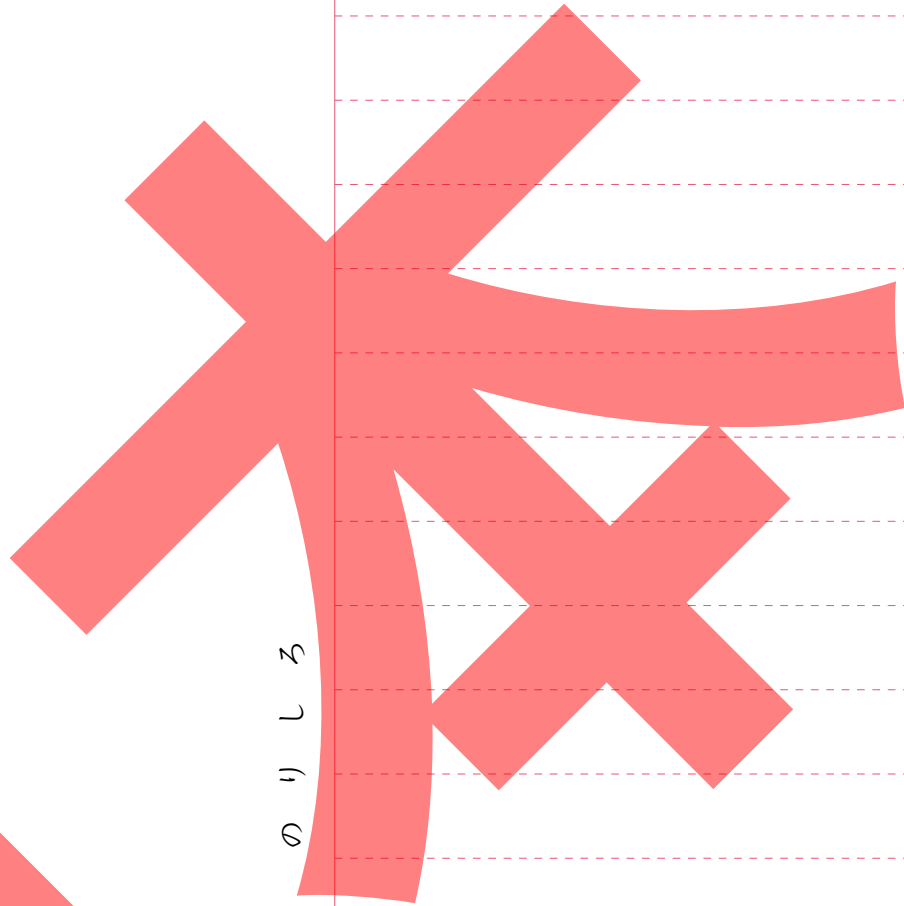
ポスターの下部や別の紙に、ポスターの解説文を書きましょう。解説文には、どのような目的でテーマを選んだのか、どのような点をくふうしてポスターを作ったのかなどを書きましょう。

キ リ ト リ セ シ



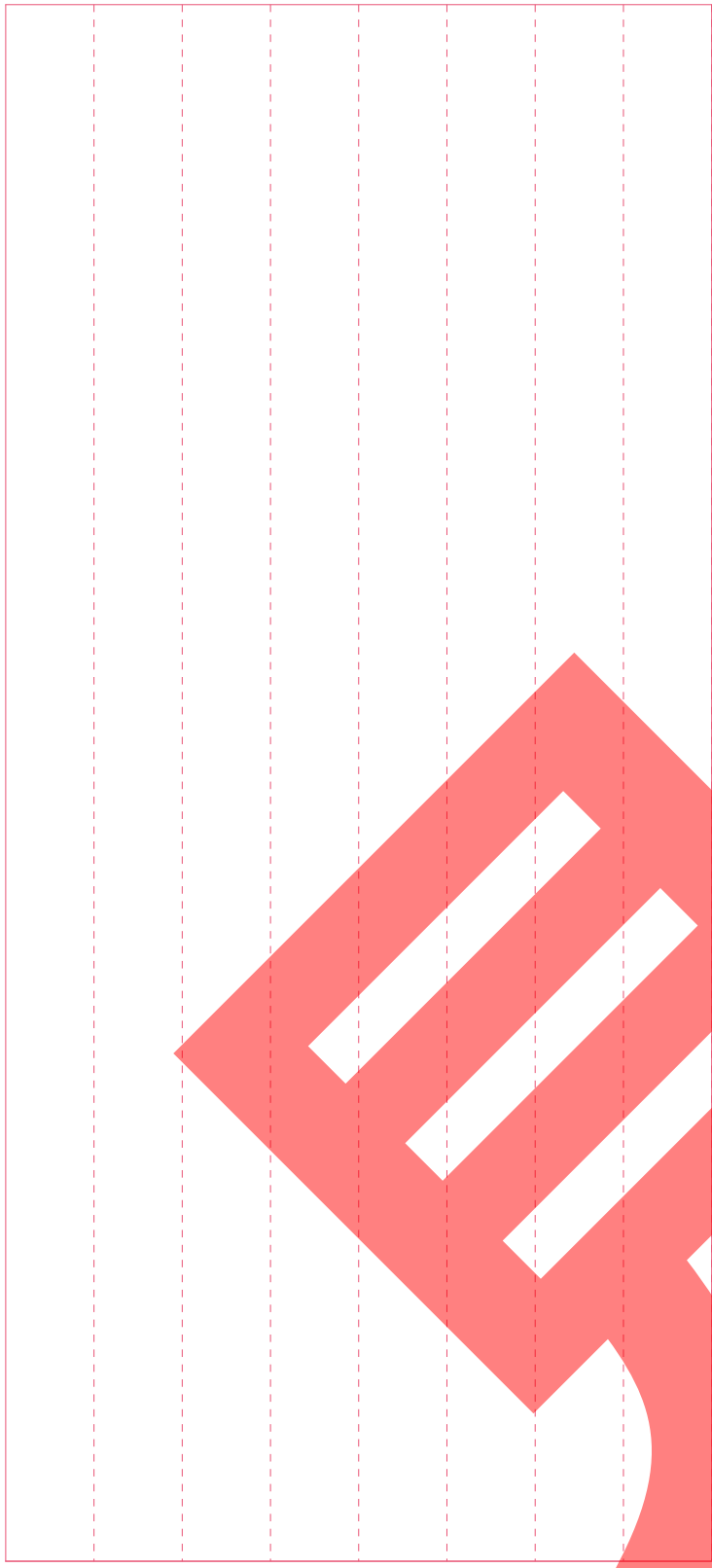
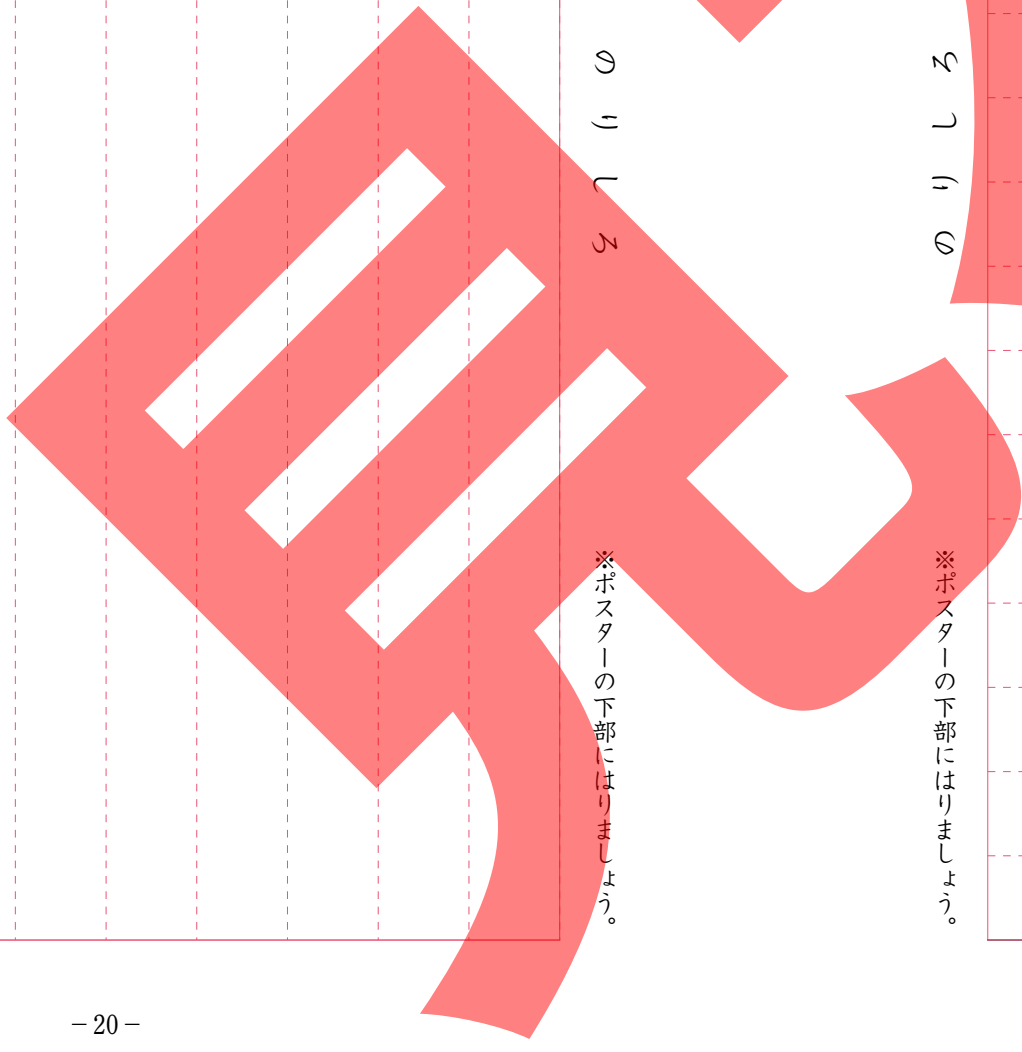
ろ し り の

※ポスターの下部にはりましょう。



ろ し り の

※ポスターの下部にはりましょう。



キ リ ト リ セ シ

四 感想を伝え合おう。

ポスターと解説文を読み合い、感想を伝え合いましょう。

()	()	()
より()	()	()
()	より()	()
()	()	より()

五 ふり返りを書こう。

調べた情報を活用するとき、どんなことをくふうしましたか。

『インターネットは冒険だ』『弱いロボットだからできること』などの科学技術に関わる文章を読んできました。ここでは、ドラえもののひみつ道具を例にして科学技術の必要性について考え、意見文を書きましょう。

■学習の流れ

- ①自分の立場を決めて考えを持つ。
- ②考えを整理しよう。
- ③構成を考えよう。
- ④意見文を書こう。
- ⑤感想を伝え合おう。

★言葉の力 反対意見を予想して書くために

- ・ 反対意見を予想し、どう説得するかを考えることで、自分の考えに説得力を持たせる。
- ・ 自分の考えや、反対意見への対応が明確になるよう、「始め」「中」「終わり」の構成で書く。
- ・ 自分の考えや経験だけでなく、ほかの人の考えや客観的な事実など、さまざまな情報を結び付けて考える。

どう考える？ もしもの技術

○反対意見を予想して書きましょう

一 自分の立場を決めて考えを持つ。

ドラえもんのみみつ道具である「心の声スピーカー」について書かれた教科書²³¹ページの資料を読み、その機能や特性について理解しましょう。
資料から読み取ったことをもとに、「心の声スピーカー」が必要か、それとも不要かについて、自分の立場を決めましょう。

「心の声スピーカー」は必要である ・ 必要ではない

いろいろな意見があることを知るために、ペアやグループになって話し合いました。

二 考えを整理しよう。

「心の声スピーカー」の必要性など、題材について話し合ったことをもとに、自分の考えとその理由を、整理しましょう。

自分の考えやその理由が大体固まったら、反対意見を予想して書き出しましょう。さらに、予想される反対意見に対してどのような考えや理由を述べればよいか、対応を考えましょう。

■自分の考えやその理由を整理するメモ

予想される反対意見	自分の考えの理由	自分の考えの理由
反対意見	理由	理由
↓	↓	↓
反対意見への対応	例えば こんなことあったよ	例えば こんなことあったよ

三 構成を考えよう。

考えと理由や反対意見への対応について書き出したことをもとに、意見文の構成を考えましょう。自分の考えや理由、予想される反対意見など、どのような順序で書けば、相手に納得してもらえ文章になるでしょうか。

■構成メモ

始め	話題の提示・自分の考え
中	考えとその理由 予想される反対意見と、その対応
終わり	まとめ・自分の考え

四 意見文を書こう。

次のような説得力を持たせる表現を使い、構成メモをもとに、自分の考えを文章にまとめましょう。相手への共感の気持ちを表現することが説得力のある文章表現につながります。

★ 説得力を持たせる表現

A 提案理由を説明するときの表現

【例】理由は…。一つ目は…。二つ目は…。

B 予想される反対意見を伝えるときの表現

【例】…という意見の人也在るでしょう。／確かに…かもしれません。
もつとも、…かもしれません。／…と考える人也在るでしょう。

C 反対意見への対応を伝えるときの表現

【例】その場合、…するのがよいと思います。／しかし、…だと思います。

五 感想を伝え合おう。

書いた文章を友達と読み合いましょう。考えと理由の関係がはっきりしているか、反対意見を予想して書いているか、文章の構成は分かりやすいか、文章に説得力があるか、といった点に気をつけて読み、よかったところを伝え合いましょう。

()	より()	()	より()	()	より()

六 ふり返りを書こう。

説得力を持たせるために、どんなことに気をつけて文章を書きましたか。

〈詩を作る〉

表現のくふうを学んで、詩を書こう。

題名「

」



詩の表現技法

三 タウン誌の記事を書こう。

構成メモをもとに記事を書きましょう。読み返して、まちがっているところがないか、よりよくできそうなところがないかなど、文章を推敲^{すいこう}して適切^{適切}に直しましょう。

内容が見直せたら、資料の配置や見せ方を決めて、タウン誌の記事を完成させましょう。

キ リ ト リ セ シ



令和
7
年度版

作文の友 5

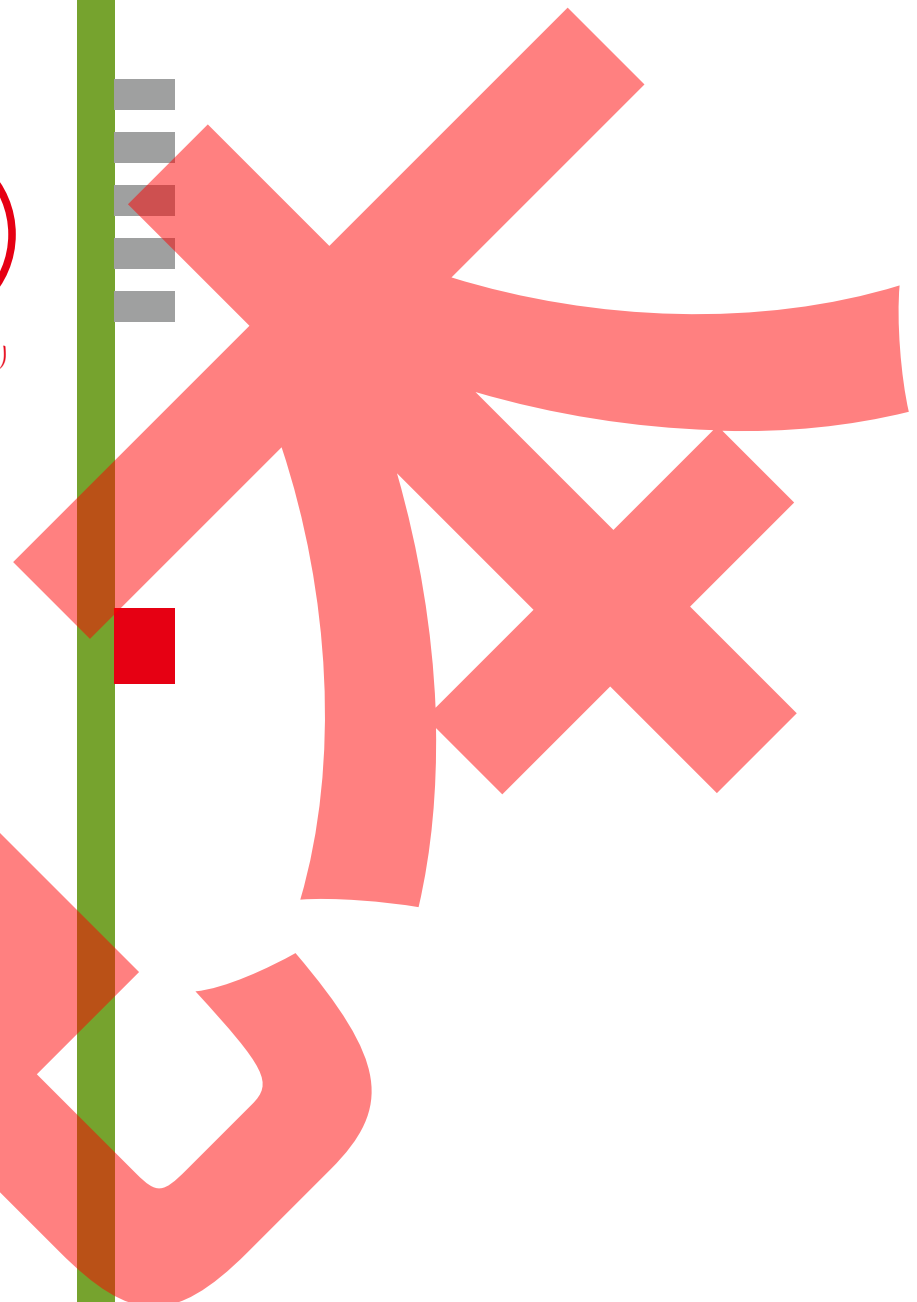
～書くこと 大好き～

教

指導展開例あり



愛知教育文化振興会
三河教育研究会



5	年		組	名前	
----------	---	--	---	----	--



原稿用紙の使い方・書き直し方

題は二、三マスあける

三行目から

書き出しは一マスあける

「ただし
から書き出すとき
は一マスあけない

話しことば・会話は
行をかえる

話しことは・会話の
二行目は一マス下げる

会話文の次の行から
新しく文が始まると
きは一マス下げる

話の内容が変わるときも一マス下げる

書き直すときの記号

—	書き直すときの記号
{	つけくわえる
[	書きかえる
	とる
└	行をかえる

一マスあける

「一マス」

さいごの一マスあける

と同じマスに書く

いちばん下の「,」「。」はマスの中に入れる

先生と保護者の皆様へ

- ・教科書との関連を図っています。
 - ・児童が自分の力で文章が書けるようになることを意図して編集しています。
 - ・参考作品は「みかわの子」や地域の読書感想文集に掲載されているものを使っています。
- なお、掲載作品の学校名、地区名については執筆時の名前で表記されています。

令和7年度版 作文の友 5年

編集 「作文の友」編集委員会
三河教育研究会

刊行 公益財団法人愛知教育文化振興会
〒444-0868 岡崎市明大寺町字馬場東170番地1

電話 0564-51-4819

印刷 あいち印刷株式会社

※無断で複写・複製することを禁じます。

いき 地域のみにょくを 伝えよう

すじ
○筋道を立てて書きましょう

★言葉の力 筋道を立てて書くためには

- ・読み手に伝えたいことの中心を考え、情報を整理する。
- ・調べて分かった事実と、自分の考えを区別して書く。
- ・「始め・中・終わり」など、伝える情報に合った文章の構成を考える。
- ・主に「中」の文章のまとまりをくふうする。

■学習の流れ

- ① 題材について調べて情報を整理しよう。
- ② 記事の構成を考えよう。
- ③ タウン誌の記事を書こう。
- ④ 感想を伝え合おう。

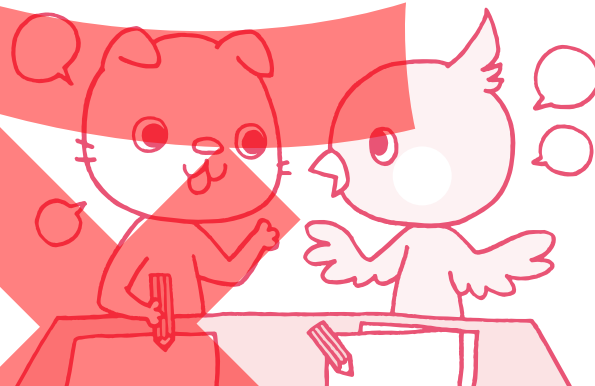
文章の筋道を立てながら、タウン誌の記事を書きましよう。

○目標 文章の筋道を立てながら、タウン誌の記事を書くことができる。
○関連 「地域のみにょくを伝えよう」

作文の友

～書くこと 大好き～

5



目次

〈教科書との関連〉

1 地域のみにょくを伝えよう……………2

・筋道を立てて書きましよう
「地域のみにょくを伝えよう」

2 五年生の本だな……………6

・読書感想文を書きましよう
「図書館へ行こう」「五年生の本だな」

「読書の世界を広げよう」「伝記を読んで感想文を書こう」

3 心の動きを短歌で表そう……………12

・表現をくふうして短歌を作りましよう
「心の動きを短歌で表そう」

4 和の文化を発信しよう……………16

・目的に応じて情報を関係づけましよう
「和の文化を発信しよう」

5 どう考える？ もしもの技術……………22

・反対意見を予想して書きましよう
「どう考える？ もしもの技術」

※詩を作るページもあります。時間数に応じて取り組んでください。
指導展開例あり

一 題材について調べて情報を整理しよう。
次の例を参考に、どんなことをタウン誌の記事に書くかを考えましょう。

〈整理ノート〉

■ 題材の例

- ・ 古くからある名所
- ・ 新しい店や建物
- ・ みりよくのある人物
- ・ 地域特有のめずらしいもの

この他にも、記事にしたい
題材を書いてみましょう。

■ 調べて分かった事実や自分の考えなど、情報を整理して書きましょう。

・ 教科書61ページの二次元コード「デジタルノート」を利用して書かせてもよい。

二 記事の構成を考えよう。

整理した情報をもとに、記事の構成メモを作りましょう。書きたいことの中心を意識しながら、筋道を立てて、文章を書きましょう。分かりやすく伝えるために、資料も活用しましょう。

■ 構成メモ

ポイント

調べて分かった事実から、どのような考えを持ったのか、分かりやすく説明しよう。

始め	どう入
	・ 記事の題材
	・ 問いかけ
中	地いきのみりよく①
	(事実)
	(考え)
	地いきのみりよく②
	(事実)
	(考え)
終わり	地いきのみりよく③
	(事実)
	(考え)
まとめ	まとめ
	・ 自分の考え
	・ よびかけ

三 タウン誌の記事を書こう。
三は後ろの29ページ〜30ページを使いましょう。

四 感想を伝え合おう。
完成したタウン誌の記事を友達と読み合い、説明が分かりやすいと感じたところや、資料がうまく活用できていると感じたところなどを伝え合いましょう。

五 ふり返りを書こう。
筋道を立てて説明するために、どのようにふうをしましたか。

()	()	()
()	()	()
()	()	()
()	()	()

○目標 本を読んで強く心に残ったことや考えたことを、自分の姿や経験と関係づけながら書くことができる。
○関連 「図書館へ行こう」「五年生の本だな」「読書の世界を広げよう」「伝記を読んで感想文を書こう」

五年生の本だな

○読書感想文を書きましょう

今までに読んだ本の中から、心に残った本を選んで、もう一度読み直してみましょう。悲しくてなみだを流しながら読んだ本、おもしろくて次から次へと読み進めた本、なぜだろうと考えてしまった本もあるでしょう。

自分の心に残った本には、新しい発見や心をゆり動かすことがあります。これまでの自分のすがたや考え方と比べると、初めて気づくことや学ぶこともあるでしょう。それらを、読み手によく分かるように、表現をくふうしてくわしく書いてみましょう。



一 賢暉^{ととき}さんの感想文を読んで、書くときのポイントを見つけよう。

次の作品は、『ちいさなちいさな めにみえない びせいぶつのせかい』を読んで書いた感想文です。び生物の世界について、賢暉さんがどのように感じとり、どのように書き表したのか、よく読んで調べてみましょう。

ありがとう、び生物

西尾・矢田小 勝野 賢暉

① ぼくはワクワクドキドキする、とてもすてきな本に出会った。ページをめくるたびに、カラフルではく力のある絵が次々と目に飛びこんできて、あっとおどろくことや考えさせられることがたくさん書いてあり、び生物の世界が楽しくて、夢中になって何度も読んだ。

② ぼくは今まで、び生物と聞くとあまり良い感じがしなかった。なぜなら、インフルエンザなどの病気はび生物のしわざで、病気になるの大変だからだ。でも、病気を引き起こすび生物ばかりではなく、ぼくたちが元気でいられるように助けてくれるび生物もたくさんいることを、この本が教えてくれた。

③ スプーン一ぱいの土の中には、十億のび生物がいる。それは

インドの国中の人を全部集めたくらいの数と知ってびっくりした。それなら、ぼくの家の庭や学校のグラウンドの土の中には、いったいどれだけのび生物がいるのだろう。そう考えると、ぼくの頭の中はすごい数のび生物のことでいっぱいになった。

④ び生物が、増えるのが得意なことにおどろかされた。ぼくは、インフルエンザになったときのことを思い出した。初めは少しだるいくらいで大したことはなかった。ところが、数時間で高熱になって、起き上がることもできなくなってしまい、とても苦しかった。これは、び生物が体の中で増えて増えて数え切れないくらいになっていたからだと分かった。び生物は、とても小さいけれど、たくさんに増えたから、ぼくの体も負けてしまったのだ。

⑤ び生物のすごさはこれだけではない。とんでもなく大きなことをしているのだ。

⑥ 山をすり減らしたり、がけを作り上げたり、海を赤くそめたり、空をくもらせたり、雪をふらせたり……。信じられないけれど、全部本当だ。び生物は、ぼくよりすごく小さいけれど、仲間といっしょにとても大きな仕事をしている。それが強く心に残った。

○書き出しをくふうしてみましょう。

①② 作者は、び生物の世界にふれたときの感動から書き出しています。

ほかにも次のような書き方があります。読み手を引きつける効果的な書き出しを考えましょう。

- ・本を読むきっかけになったことから
- ・書名や心に残った登場人物のすがたから
- ・登場人物や筆者へのよびかけから
- ・自分の経験から
- ・本の内容のしょうかい（自分が気に入った文のぬき出し）から

○具体例を入れて書きましょう。

③④ ⑤ ⑥ 作者は、身近にある「学校のグラウンド」や「インフルエンザになったときのこと」などを挙げ、自分の考えにつながる事実を選んで書いています。具体例を書くことで、作者の感動がより読み手に伝わります。

- ・本の中に何度も登場する言葉をテーマに決めて書く。
- ・登場人物の行動や言葉を引用し、自分の考えとかかわらせて書く。
- ・事実（具体例）と自分の感想・意見を区別して書く。



⑦ もし、び生物がいなかったら、どうなるだろう。大好きなヨーグルトが食べられなくなるのは、まだがまんでできる。でも、雨がふらなくなるとか、土がなくなるのは大変だ。野菜や果物ができなくなる。動物も花も木も虫たちも生きていくことはできない。あたり前のようにいるび生物がいなくなると、ぼくたちは人間は、息をすることも、食べ物を食べることもできないのだ。び生物は、ぼくたちの命を支えてくれる、かけがえのない存在だったんだと気がついた。び生物のおかげで、ぼくたちは生きていられるんだと、感しゃの気持ちでいっぱいになった。

⑧ 学校の理科の実験で、けんび鏡を使ってび生物を見ることができた。本で読んだ内容とレンズの中のび生物がつながって、おおっと思わず声が出た。そのとき思った。び生物を使って、ヨーグルト以外にもおいしい食べ物を作れないだろうか、び生物で病気を治せる薬はできないだろうか、び生物をもっと勉強して、何か開発してみたい、と。この本を読んで、ぼくの夢が広がり始めた。

（『読書感想文集 天空』二〇一五年度・第14号 愛知県学校図書館研究会）

ニコラ・デイビス『ちいさなちいさなめにみえないびせいぶつのせかい』（ゴブリン書房）

○自分のこれまでの生き方や考え方と比べて、学んだことを書きましよう。

⑦ 作者は、「もし、び生物がいなかったら、どうなる」か考えたことを具体例を挙げながら書いています。

作者は、あまり良い感じがしなかったび生物をかけがえのない存在だと気づき、感謝の気持ちをもちようになったことが伝わります。この表現は題名にもつながっています。

○しめくりをくふうして書きましよう。

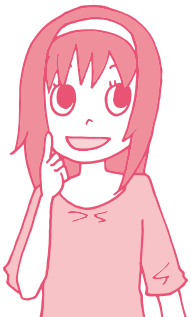
⑧ 作者は、本から学んだことを理科の授業でさらに深めています。

さらに、び生物を使って何か開発してみたいと作者の夢が広がっていきます。そんな作者の希望いっぱいの思いが読み手の心に残ります。

二 メモを取りながら読もう。

心に残った本を選び、次のことについてメモを取りながら、もう一度本を読んでみましょう。

書名	作者名
(1) この本を選んだわけ、この本を読もうと思ったきっかけ	
(2) あらすじや本のだいたいの内容	



・心に強く感じたことや想像したことを、具体的な言葉で表現させる。

(3)	心に残った場面や言葉								
(4)	自分と似ていると思ったこと、ちがうと思ったこと								
(5)	自分が思ったこと、考えたこと								
(6)	読む前と比べて、ものの見方や考え方が変わったところ								

三 感想文を書こう。

どんな順序で書き進めるか、組み立てを考えてから、感想文を書きましょう。また、書き上がった感想文を読み合い、感想を伝え合いましょう。

○目標 表現を工夫しながら、心の動きを短歌で表すことができる。
○関連 「心の動きを短歌で表そう」

生活の中で新しい発見をしたり、感動したりして、心が動いたことはありませんか。その中から、書きたいことやみんなに伝えたいことを見つけ、短歌で表しましょう。

■学習の流れ

- ①材料を集めよう。
- ②三十一音で表現しよう。
- ③表現をくふうして短歌を仕上げよう。
- ④感想を伝え合おう。

★言葉の力 表現をくふうして短歌を作るために

- ・心の動きや出来事の様子が伝わるように言葉を選ぶ。
- ・何を伝えたいかを考え、より適切な言葉をさがす。
- ・言葉の順序を入れかえたり、言葉の組み合わせを考えたりして、表現をくふうする。

心の動きを短歌で表そう

○表現をくふうして短歌を作りましょう

一 材料を集めよう。

生活の中で、心が動いた場面や出来事を思い出し、材料を集めましょう。したこと、見たこと、聞いたことなどをメモに書き出し、そこから連想した言葉をつないで発想を広げましょう。

連想メモを書きましょう。

二 三十一音で表現しよう。

メモしたことの中から題材を選び、発見や感動を五・七・五・七・七の三十一音のリズムで表現しましょう。

音の数え方

- ・かな一字につき一音と数えるのが基本。
- ・「ん」、「ー（のばす音）」、小さい「っ」も一音。
- ・「しゃ」「しゅ」「しょ」などのように、二字で一音となるものがある。

三十一音で表現しましょう。

※リズムがあれば、字数にこだわらなくてよい。

三 表現をくふうして短歌を仕上げよう。

作った短歌を声に出して読んだり、友達と読み合ったりして、もっとくふうできそうなどころがないかを考えましょう。

くふうするポイント

- ・心の動きや出来事の様子が伝わるように言葉を選ぶ。
- ・何を伝えたいかを考え、より適切な言葉をさがす。
- ・言葉の順序を入れかえたり、言葉の組み合わせを考えたりして、表現をくふうする。

(例) 妹と観察したよたくさんの

流星群を夜ふかしをして

夜ふかしで流星群を観察だ

あっちもきらりこっちもきらり



「似ている別の言葉の例」

四 感想を伝え合い、ふり返りをしよう。

- (1) できあがった短歌を友達と交かんして読み合い、思いうかぶ場面の様子やおもしろいと感じたところなど、感想を伝え合いましょう。

()	()	()
より	()	()
()	より	()
()	()	より

- (2) どのように表現をくふうして、短歌を作りましたか。

○目標 資料を効果的に活用しながら、和の文化のポスターを作ることができる。
○関連 「和の文化を発信しよう」

「和の文化を受けつぐ——和菓子をさぐる」を読んで学んだことを生かしながら、和の文化について調べましょう。そして教科書165ページを参考にしながら、ポスターにまとめましょう。

■学習の流れ

- ① 題材を決めて情報を集めよう。
- ② わり付けを考え、ポスターを作ろう。
- ③ ポスターの解説文を書こう。

和の文化を 発信しよう

○目的に応じて情報を関係づけましょう

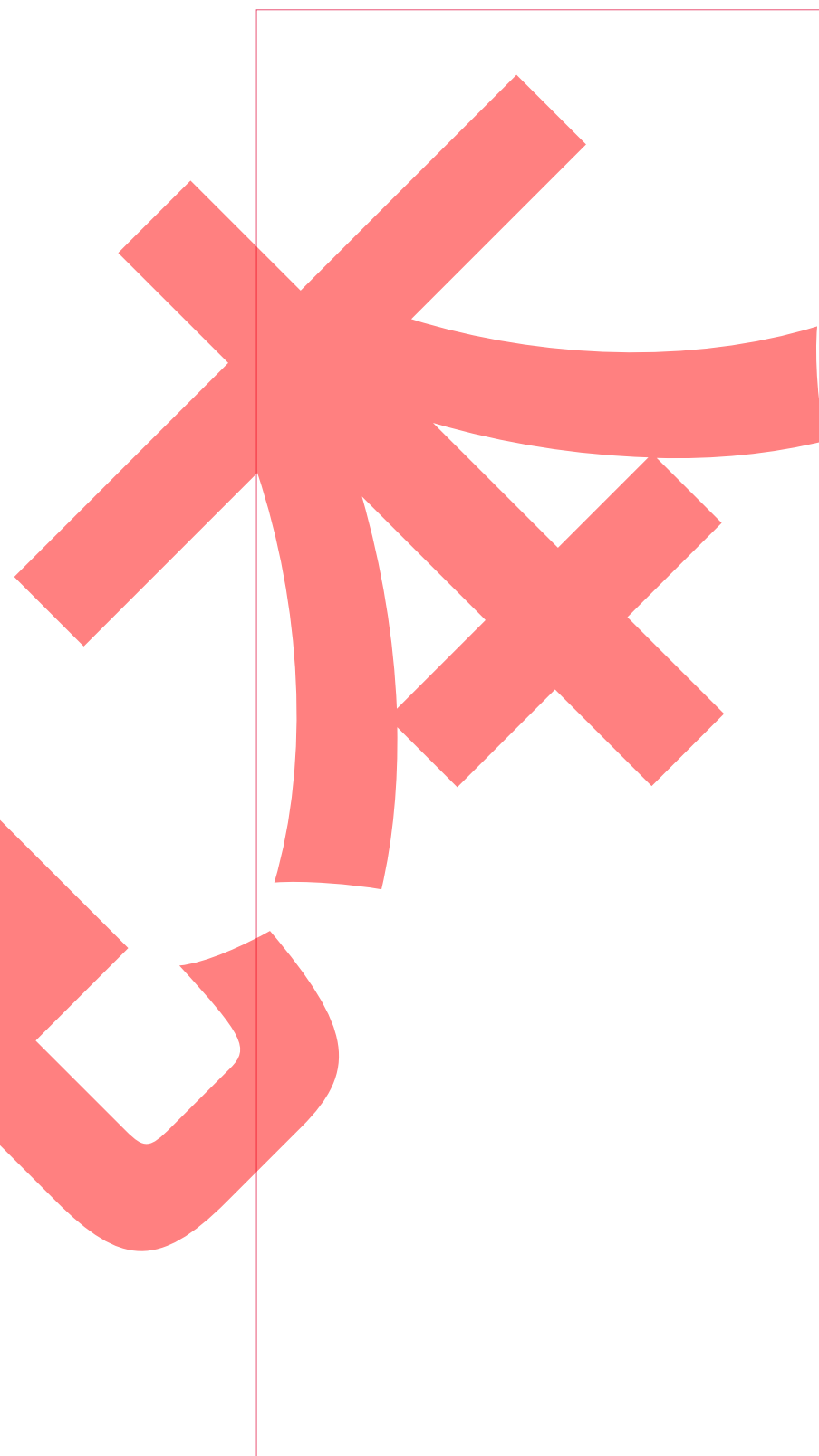
★言葉の力 目的に応じて情報を関係づけるためには

- ・ 何のために伝えるのか、目的を明確にする。
- ・ さまざまな方法で情報を集め、その中から目的に合ったものを選ぶ。
- ・ 文章だけでなく、表やグラフ、写真などの資料を適切に使って表す。
- ・ 文章と図表との関係を考えて、情報を効果的に示す。

一 テーマを決めて情報を集めよう。
各自でポスターのテーマを決めたら、本やインターネットで集めた情報を整理しましょう。そのうえで、ポスターで何が伝えたいのかを考えましょう。

■集めた情報を整理して書きましょう。

・教科書166ページの二次元コード「デジタルノート」を利用して書かせてもよい。



二 わり付けを考え、ポスターを作ろう。

ポスターのわり付けを考えると、説明やキャッチコピーなどの文章と写真などの図表を、どのように配置すると効果的かを考えましょう。

■教科書167ページを参考にして、わり付けを書いてみましょう。



「キャッチコピーとは」



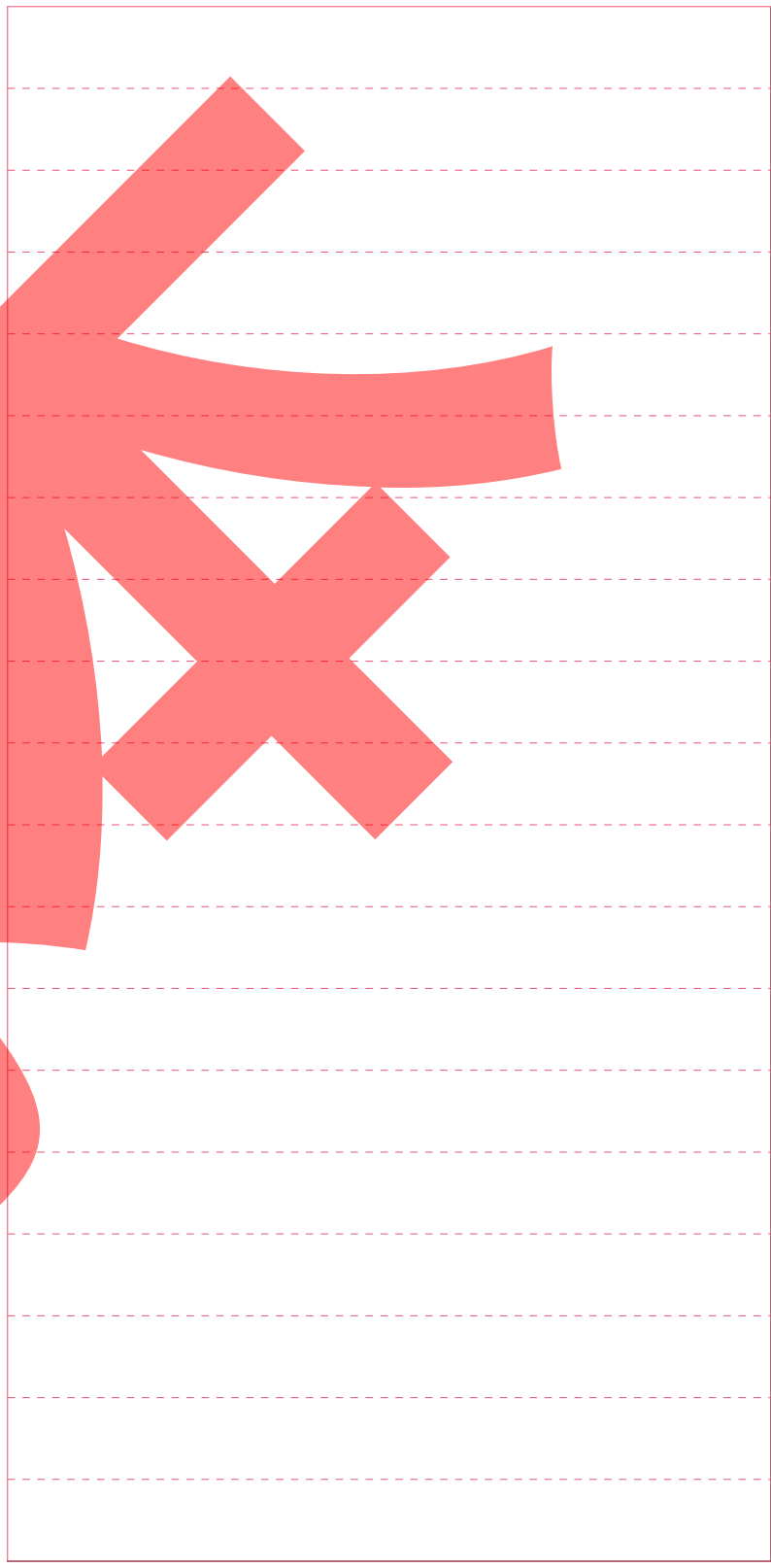
・必要に応じて縦書き、横書きを選ばせる。

ポイント
図表をどのように活用すると、ポスターの意図が読み手に伝わるか考えよう。

三 ポスターの解説文を書こう。 ・必要に応じて縦書き(19ページ)、横書き(20ページ)を選ばせる。

ポスターの下部や別の紙に、ポスターの解説文を書きましょう。解説文には、どのような目的でテーマを選んだのか、どのような点をくふうしてポスターを作ったのかなどを書きましょう。

キ リ ト リ セ シ

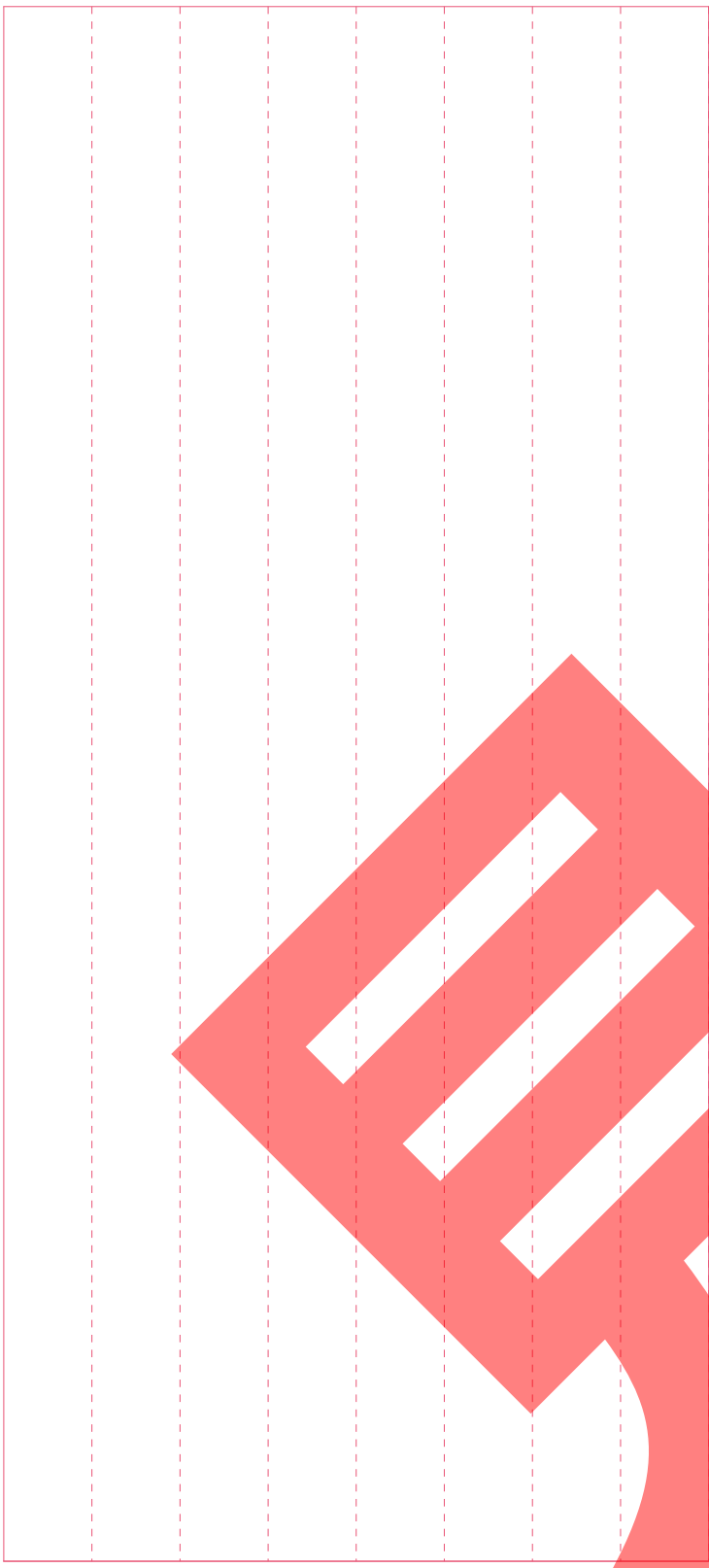


ろ し り の

※ポスターの下部にはりましょう。

ろ し り の

※ポスターの下部にはりましょう。



キ リ ト リ セ シ

四 感想を伝え合おう。

ポスターと解説文を読み合い、感想を伝え合いましょう。

()	()	()
より()	()	()
()	より()	()
()	()	より()

五 ふり返りを書こう。

調べた情報を活用するとき、どんなことをくふうしましたか。

○目標 反対意見を予想しながら、説得力のある意見文を書くことができる。
○関連 「どう考える? もしもの技術」

『インターネットは冒険だ』『弱いロボットだからできること』などの科学技術に関わる文章を読んできました。ここでは、ドラえもののひみつ道具を例にして科学技術の必要性について考え、意見文を書きましょう。

■学習の流れ

- ①自分の立場を決めて考えを持つ。
- ②考えを整理しよう。
- ③構成を考えよう。
- ④意見文を書こう。
- ⑤感想を伝え合おう。

★言葉の力 反対意見を予想して書くために

- ・ 反対意見を予想し、どう説得するかを考えることで、自分の考えに説得力を持たせる。
- ・ 自分の考えや、反対意見への対応が明確になるよう、「始め」「中」「終わり」の構成で書く。
- ・ 自分の考えや経験だけでなく、ほかの人の考えや客観的な事実など、さまざまな情報を結び付けて考える。

どう考える? もしもの技術

○反対意見を予想して書きましょう

一 自分の立場を決めて考えを持つ。

ドラえもんのみみつ道具である「心の声スピーカー」について書かれた教科書231ページの資料を読み、その機能や特性について理解しましょう。

資料から読み取ったことをもとに、「心の声スピーカー」が必要か、それとも不要かについて、自分の立場を決めましょう。

「心の声スピーカー」は必要である ・ 必要ではない

いろいろな意見があることを知るために、ペアやグループになって話し合いました。

二 考えを整理しよう。

「心の声スピーカー」の必要性など、題材について話し合ったことをもとに、自分の考えとその理由を、整理しましょう。

自分の考えやその理由が大体固まったら、反対意見を予想して書き出しましょう。さらに、予想される反対意見に対してどのような考えや理由を述べればよいか、対応を考えましょう。

■自分の考えやその理由を整理するメモ

予想される反対意見	自分の考えの理由	自分の考えの理由
反対意見	理由	理由
↓	↓	↓
反対意見への対応	例えば こんなことあったよ	例えば こんなことあったよ

三 構成を考えよう。

考えと理由や反対意見への対応について書き出したことをもとに、意見文の構成を考えましょう。自分の考えや理由、予想される反対意見など、どのような順序で書けば、相手に納得してもらえ文章になるでしょうか。

■構成メモ ・ P25の★説得力を持たせる表現を参考にさせる。

始め	話題の提示・自分の考え
中	考えとその理由
	予想される反対意見と、その対応
終わり	まとめ・自分の考え

四 意見文を書こう。

次のような説得力を持たせる表現を使い、構成メモをもとに、自分の考えを文章にまとめましょう。相手への共感の気持ちを表現することが説得力のある文章表現につながります。

★ 説得力を持たせる表現

A 提案理由を説明するときの表現

【例】理由は…。一つ目は…。二つ目は…。

B 予想される反対意見を伝えるときの表現

【例】…という意見の人也在るでしょう。／確かに…かもしれません。
もつとも、…かもしれません。／…と考える人也在るでしょう。

C 反対意見への対応を伝えるときの表現

【例】その場合、…するのがよいと思います。／しかし、…だと思います。

五 感想を伝え合おう。

書いた文章を友達と読み合いましょう。考えと理由の関係がはっきりしているか、反対意見を予想して書いているか、文章の構成は分かりやすいか、文章に説得力があるか、といった点に気をつけて読み、よかったところを伝え合いましょう。

()	より()	()	より()	()	より()

六 ふり返りを書こう。

説得力を持たせるために、どんなことに気をつけて文章を書きましたか。

〈詩を作る〉

表現のくふうを学んで、詩を書こう。

題名「

」



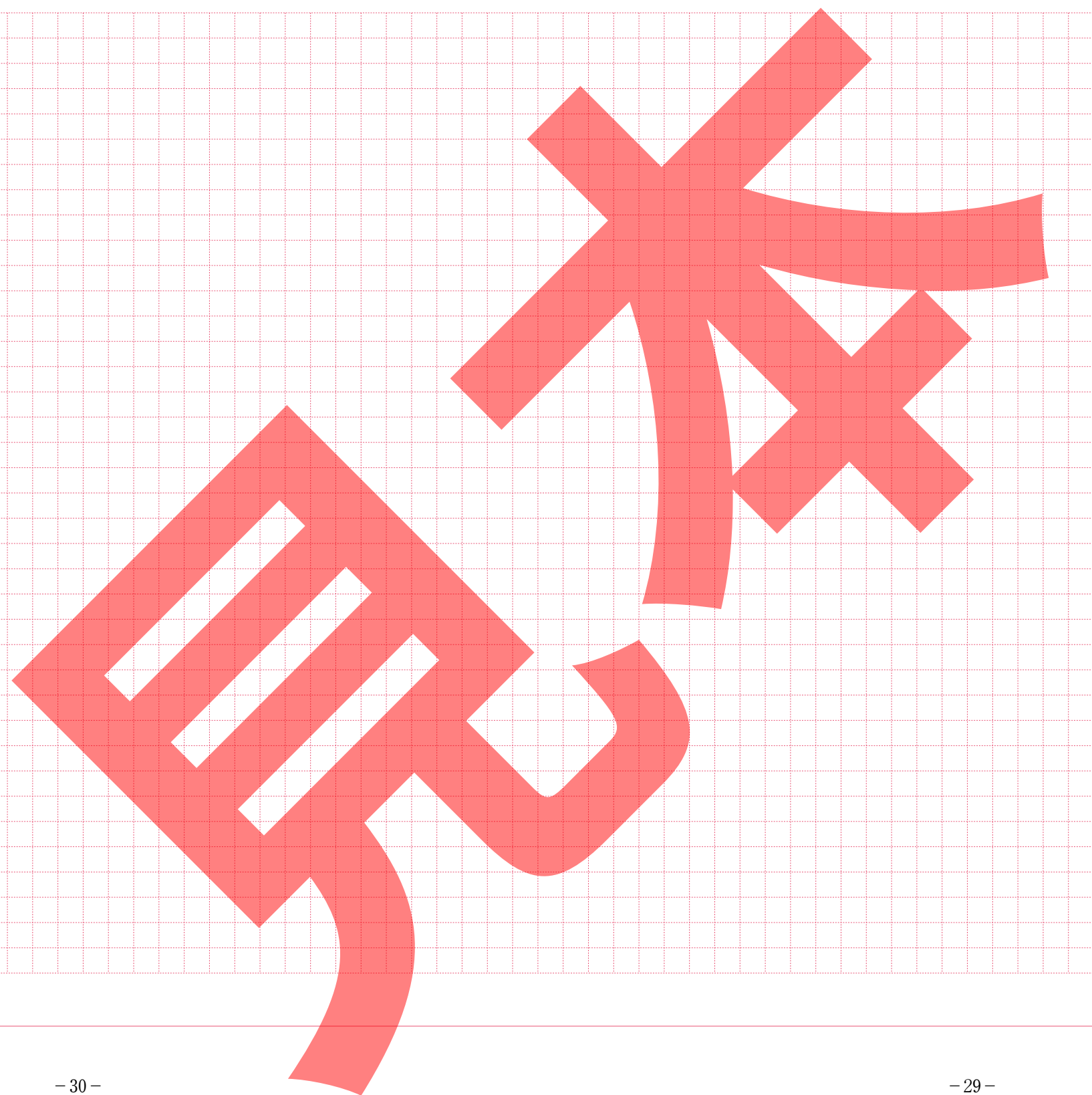
詩の表現技法

三 タウン誌の記事を書こう。

構成メモをもとに記事を書きましょう。読み返して、まちがっているところがないか、よりよくできそうなところがないかなど、文章を推敲^{すいこう}して適切^{適切}に直しましょう。

内容が見直せたら、資料の配置や見せ方を決めて、タウン誌の記事を完成させましょう。

キ リ ト リ セ シ



地域のみによくを伝えよう

筋道を立てて書きましよう

《教科書との関連》
「地域のみによくを伝えよう」

一 学習目標

1 文章の筋道を立てながら、タウン誌の記事を書くことができる。

二 指導事項

1 地域のみによくを多くの人に伝えることを目標に、題材についての情報を集めさせる。

2 地域のみによくを多くの人に伝えるための文章全体の構成や展開、資料の活用のかたを学ばせ、それらを生かして筋道の通った文章を書かせる。

三 展開例

学習の流れ	学習内容・活動	指導上の留意点
① 学習課題をつかみ、例文を読んで工夫を見つける。 ② 地域のみによくについて、調べる題材を決める。 ③ 調べて、分かった事実や、そこから考えたことを整理する。	① 学習課題をつかみ、教科書P59の例文を読んで、気づいた点やよい点を話し合う。 ② 地域のみによくについて、調べる題材を決める。 ③ 題材について、本やインターネット、地元の人へのインタビューなどで調べて情報を整理する。 (1) 本やインターネット、地元の人へのインタビューなどで調べて資料を集める。 (2) 資料から分かった事実や考えたことを、整理ノートやデジタルノートを使って整理する。 (設問一)	① 構成に関する工夫を確認させる。 ○ 調べて分かった事実だけでなく、そこから考えたことが書かれていることを想起させる。 ③ 整理する際には、箇条書きにするなど、分かりやすく簡潔にまとめるようにさせる。 ○ 資料から分かったことと自分の考えを分けて書かせる。 ○ 写真、グラフ、表など、資料として使えるものの例を示す。

④ 整理した情報をもとに構成を考える。 ⑤ 構成メモをもとに、文章を書く。 ⑥ 相互評価をし、文章を手直しする。 ⑦ 感想を伝え合い、振り返りをする。	④ 教科書P61の構成メモの例を見ながら、始め・中・終わりの構成を意識して、構成メモを書く。 (設問二) ⑤ 構成メモをもとに、地域のみによくについて説明する文章を書く。 (設問三) ⑥ 書いた文章をグループで読み合い、よりよい文章にするために推敲する。 ⑦ 書いた文章をグループで読み合い、感想を伝え合う。 (1) 書いた文章を友達と読み合い、説明が分かりやすいと感じたところや、資料がうまく活用できていると感じたところを伝え合う。 (設問四) (2) 筋道を立てて説明するために、どんなことに気をつけたか振り返る。 (設問五)	④ 資料を読み取る際には、次のことを伝える。 ・ 題やキャプション(写真につけた説明)から何についての資料が読み取る。 ・ グラフを見るときは、次の点に気をつける。 円グラフ↓割合、折れ線グラフ↓変化 棒グラフ↓差、帯グラフ↓内訳やその変化 ④ 書きたいことを短くまとめて箇条書きにするように伝える。 ⑤ 資料を貼り付けるスペースを空けて書くよう指示する。 ○ 資料に書かれている言葉や数値は正しく引用させる。 ○ 伝えたい内容に合う、効果的な題名を工夫させる。 ⑥ 読み合うときの観点に着目して、評価するように伝える。 ・ 伝えたい内容が伝わってくるか。 ・ 事実と考えを区別して書けているか。 ・ 資料が活用されているか。
--	--	---

五年生の本だな

―読書感想文を書きましよう―

一 学習目標

- 1 本を読んで強く心に残ったことや考えたことを、自分の姿や経験と関係づけながら書くことができる。

二 指導事項

- 1 本を読んで心に残った場面や感動を、自分の体験やふだん考えていることと関連づけて表現させる。
- 2 読み手をひきつける文章にするために、題名や書き出し、書くことからの順序を工夫させる。

《教科書との関連》

- 「図書館へ行こう」
- 「五年生の本だな」
- 「読書の世界を広げよう」
- 「伝記を読んで感想文を書こう」

三 展開例

学習の流れ	学習内容・活動	指導上の留意点
① 参考作品を読んで書き方や構成の工夫を学習する。 ② 選んだ本を読みながら、メモをとる。	① 参考作品の学習を通じて、読書感想文の書き方を知る。 （設問一） ② 書き出しの工夫と具体例の書き方を知る。 ③ 自分と筆者のものの見方や考え方を比べて、自分の姿を振り返っていることを知る。 ④ 本を読んで学んだこと、前向きに目標をもつていく作者の考えをまとめてあることを知る。 ⑤ 心に残った本を選び、感動した場面や考えたことをメモ書きする。 （設問二） ⑥ 本を選んだわけ、本を読もうと思ったきっかけ	① 書き出しの工夫の例を示す。 ○ 自分が登場人物と比べてどうであるのか、振り返って書くことよいことに気づかせる。 ○ 本を読んで考え方が変わったことや学んだことを、まとめて書いていることを知らせる。 ② ① あらすじは、詳しく書きすぎず、特に心に残った部分を書き出すようにさせる。

③ 構想を立てる。 ④ 記述する。 ⑤ 推敲する。	③ ① あらすじや本のだいたいの内容 ② 心に残った場面や言葉 ③ 自分と似ていると思ったこと、ちがうと思ったこと ④ 自分が思ったこと、考えたこと ⑤ 読む前と比べて、ものの見方や考え方が変わったところ ⑥ ※ 時間が不足する場合は、児童の進捗状況を考慮して時間を設定したり、家庭学習にしたりする。 ③ 設問二で書いたメモをもとにして、次のことに注意して文章の組み立てを考える。 ・ 主題をはっきりさせる。 ・ 主題に関わる題材を自分のメモから拾う。 ・ 書き出しや書く順序を決める。 ・ 題名を考える。 ④ 構想メモにもとづいて記述する。 （設問三） ・ 段落を意識して書く。 ・ 作品から文章を引用するときは、引用と分かる書き方をする。 ⑤ 書いた感想文を読み合い、その本を読んでいない人にも、自分の考えがよく分かるように書いているか確かめ、推敲する。	③ ① 題名のつけ方、書く順序を工夫させる。 ○ 自分が読書したことによって、ものの見方・考え方・感じ方の上で参考になったことを主題とするように助言する。 ○ 心に残った言葉はそのまま抜き出し、一つの場面などは自分の言葉でまとめさせる。 ○ 自分の経験を書いたり、自分と登場人物を比べたりしながら、自分の考えをしっかりと書かせる。
--	---	---

心の動きを短歌で表そう

表現をくふうして短歌を作りましょう

《教科書との関連》
「心の動きを短歌で表そう」

一 学習目標

1 表現を工夫しながら、心の動きを短歌で表すことができる。

二 指導事項

1 自分の考えや感じたことを明確に表すために、言葉を吟味させたり、表現を工夫させたりする。
2 互いの短歌を読んで、それぞれの表現のよさを見つけさせ、伝え合わせる。

三 展開例

学習の流れ	学習内容・活動	指導上の留意点
① 短歌を読む。	① 教科書P115の作品例を読んで、好きな短歌について話し合う中で、短歌のまわりを確かめたり、思い浮かべた情景などを確認する。	① 優れた表現、気に入った表現に線を引かせる。 ○好きな短歌を選び「いつ」「どこで」「どんなこと」「どんな思い」が表れているか確認させる。
② 材料を集め、短歌を作る。	②① 生活の中で心が動いた場面や出来事を思い出し、材料を集める。 ② 集めた材料から題材を選び、短歌を作る。	② ①したこと、見たこと、聞いたことなどを手がかりとして連想させ、幅広く材料を集めさせる。 ○音数の数え方にしたがって、三十一音で表せる。 ○リズムがあれば字数にこだわらなくてもよいことを助言する。

③ 表現を工夫して短歌を仕上げる。	③ 言葉を吟味したり、表現を工夫したりして、短歌を仕上げる。 (設問三) (1) ペアやグループで短歌を読み合い、工夫できるところがないか考える。 (2) 自分の気持ちや行動を表す言葉を検討する。	③ 言葉を選び直す、言葉の順序を入れかえるなど、工夫できるところを考えさせる。 ○工夫するポイントを参考にし、推敲させる。
④ 短歌を読み合って、感想を伝え合い、振り返りをする。	④ 友達と短歌を読み合い、感想を伝え合う。 (1) 友達と短歌を読み合い、思い浮かぶ場面の様子やおもしろいと感じたところなどを伝え合う。 (2) 発見や感動を伝えるために、言葉や表現を工夫できたか振り返る。	④ ①目のつけどころのよかった材料や、効果的な表現の工夫について伝え合わせる。 ○比喩・擬人法・擬音語・擬態語・倒置法などの表現技法が使われているか、考えさせる。

和の文化を発信しよう

目的に応じて情報を関係づけましょう

《教科書との関連》
「和の文化を発信しよう」

一 学習目標

1 資料を効果的に活用しながら、和の文化のポスターを作ることができる。

二 指導事項

- 1 ポスターをかくことを目標に、和の文化についての資料を集めさせる。
2 文章と図表の組み合わせ方を学ばせ、割り付けを考えてポスターを作ったり、解説文を書かせたりする。

三 展開例

学習の流れ	学習内容・活動	指導上の留意点
① 「和の文化を受けつぐ」和菓子をつくる」を読む。	① 「和の文化」について調べ、ポスターを作るという目的を意識して、文章を読む。 (1) 「和の文化」に対する筆者の考えを読み取る。 (2) 筆者の説明の仕方を読み取る。 (3) 資料の効果的な用い方について確かめる。	① 調べたことや考えたことを伝えるときに、資料が使われていることを確認させる。 ○ 「歴史」「ほかの文化との関わり」「支える人々」の三つの観点ごとに説明されていることを確認させる。
② 「和の文化」について調べる。	② 「和の文化」について調べ、情報を集める。 (1) 何について調べるかテーマを決め、どんな観点で、どんなことを詳しく調べればよいか考える。 (2) 計画にそって調べ、ポスター作りに必要な情報を集める。	② 前時までに学んだ観点を参考にさせる。 ○ 文章との関係やポスターにすることを考えて、効果的な資料を選ばせる。

③ 割り付けを考え、ポスターを作る。	③ 情報を整理してポスターを作り、その解説文を書く。 (1) 集めた情報を整理して、ポスターの内容を考える。 (2) ポスターの構成にそって、割り付けや必要な資料を考える。 (3) ポスターにのせる文章やキャッチコピー、写真、図表をレイアウトし、ポスターをつくる。 (4) 目的や工夫した点を入れた解説文を書く。	③ 内容や図表、割り付けを考えたときには、目的に合っているか考えるよう伝える。 ○ 実際のポスターを示し、どんな割り付けにするとういかに考えさせる。 ○ 目を引くキャッチコピーや集めた写真、図表をどこに置くと効果的か考えさせる。
④ 感想を伝え合い、振り返りをする。	④ 作ったポスターを読み合い、感想を伝え合う。 (1) 作ったポスターを読み合い、説明が分かりやすいと感じたところや、写真や図表がうまく活用できていると感じたところを伝え合う。 (2) 目的に応じたポスターにするために、どのように図表を使ったか振り返る。	(設問二) (設問三) (設問四) (設問五)

どう考える？ もしもの技術

― 反対意見を予想して書きましよう ―

《教科書との関連》

「どう考える？ もしもの技術」

一 学習目標

1 反対意見を予想しながら、説得力のある意見文を書くことができる。

二 指導事項

1 自分の意見について様々な視点から反対意見を予想し、それに対する対応を考えさせる。

2 文章構成や展開を工夫させ、説得力のある意見文を書かせる。

三 展開例

学習の流れ	学習内容・活動	指導上の留意点
① 学習のめあてをつかみ、学習課題を立てる。 ② 自分の考えを整理する。	① ドラえもののひみつ道具について、自分とは反対の立場の人を説得するための意見文を書くことを知る。 （設問一） ② 教科書P 231の資料を読み、その機能や特性について理解する。 (1) 教科書P 231の資料を読み、その機能や特性について理解する。 (2) 反対意見を予想しながら説得力のある意見文を書くというめあてをつかみ、学習の見通しをもつ。 ② 資料から読み取ったことをもとに、自分の立場を決めて、「心の声スピーカー」の必要性に対する考えを整理する。 （設問二） (1) 資料から読み取ったことをもとに、自分の立場を決める。 (2) 教科書P 232の例を見ながら、自分の立場をもとにその理由とくわしい説明を書き出す。 (3) ペアやグループになって話し合い、ほかの人の考えを知る。 (4) 予想される反対意見と、その対応を考え、メモにまとめる。	①○反対の立場の人を説得させるためにどのような工夫が必要であるかという視点で話し合わせる。 ②○意見と理由を分けて考えさせる。 ○いろいろな意見があることを知るために、話し合いでは相手の意見を否定せず聞かせる。 ○様々な視点から反対意見を予想させる。 ○反対意見に対する対応策の例を示す。 ○自分の意見を見直し、修正させる。

③ 構成を考える。 ④ 意見文を書く。 ⑤ 互いの意見文を読み合って、感想を伝え合い、振り返りをする。	③ 設問一、設問二で書いたメモをもとに、教科書P 233の構成の例を見ながら、構成メモを作る。 （設問三） ④ 構成メモをもとに、意見文を書く。 （設問四） ⑤ 書いた意見文を友達と読み合い、よかったところを伝え合う。 (1) 評価の観点に気をつけて読み合い、よかったところを伝え合う。 (2) 説得力を持たせるために、どんなことに気をつけて文章を書いたか振り返る。 （設問五） （設問六）	③○自分の意見や理由、予想される反対意見など、書く順番を考えさせる。 ○反対意見の内容を前もって理由の中に組み入れるなどの工夫を考えさせる。 ④○問いかける文や、「確かに〜かもしれませんが。」 「〜と考える人もいるでしょう。」といった語句（または文型）を使って書かせる。 ⑤○交換し合って読ませる。 ○評価の観点をもたせる。 ・考えと理由の関係がはつきりしているか。 ・反対意見を予想して書いているか。 ・構成は分かりやすいか。 ・文章に説得力があるか。
--	--	--